

倫 理

(解答番号 1 ~ 38)

第1問 以下は、大学生A, B, Cがかわした対話の一部である。この文章を読み、下の問い(問1～11)に答えよ。(配点 28)

- A : ① 情報技術の発達は、人と人との^{かか}関わり方を大きく変えているね。インターネットを使えば、^{だれ}誰とでも、遠くの見知らぬ人とでも、やり取りできるもの。
- B : ② ネットにアクセスできない人もいるから、「誰とでも」は言い過ぎでしょ。
- C : 被害も大きいよ。例えば、③ 成長過程の子どもがネット上のバーチャルな世界に没頭してしまい、一緒に暮らす家族ともろくに話さなくなる、とか。
- B : ④ 家族のあり方の変化は、インターネットのせいだけじゃないと思うけど。
- A : 悪影響もあるけど、成長って⑤ 社会のなかで人と関わりながら自己を形成することだよな。ネット上でいろんな人と対話するのはプラス面も大きいよ。
- C : 対話って直接向かい合ってるもので、互いの顔が見えるから⑥ 話し相手に配慮することもできる。顔の見えないネット上のやり取りを対話と言える？
- A : ネット上では対話の相手が誰だか分からないことも多いけど、だからこそ年齢や性別や肩書きなどを気にせず、⑦ 自由に意見をやり取りできるんだよ。
- C : でも、匿名だと^{うそ}嘘や無責任な発言も簡単になるよね。自分の言葉に責任をもって誠実に他人と関わるには、⑧ 自分の姿を見せることが大切だと思うな。
- B : 相手と面と向かっていても、嘘はつけるよ。問題は、^{じか}直に話すかネット上でやり取りするか、ではないと思うな。どちらの場合も、相手に誠実に向き合って、自分の思いや考えをきちんと言葉で伝えることが肝心なわけだから。
- A : なるほど。ただ、誠意をもって話せば言いたいことが伝わる、とは限らないよね。相手に誠実であるだけでなく、正しく言葉を使う必要があると思うな。
- C : 正しく言葉を使う、か。なら、まず⑨ 言葉を使うとはどういうことかを考えないと。それを考えるにも、言葉を使わないといけないんだけどね。
- B : すると、言葉を「使う」という言い方にも議論の余地があるね。ネットみたいな⑩ 道具なら使うかどうか選べるけど、言葉は人間から切り離せないもの。
- A : 考えるときも話すときも、そこにはいつも言葉がある。よし、もっと話そう！

問 1 下線部㉔に関して、情報技術の発達に伴う社会の変化についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 1

- ① 企業や公的機関に大量の個人情報が集積されるようになったため、プライバシーが侵害される危険が大きくなっている。
- ② 公的な情報は市民の共有財産であるという考え方が定着し、国や自治体のもつあらゆる情報が市民に公開されるようになっている。
- ③ 情報技術の発達によって情報の違法な複製が困難となったため、知的所有権が侵害される危険は少なくなっている。
- ④ インターネットを使って個人が直接情報を得られるようになり、マスメディアが情報操作を行う危険は少なくなっている。

問 2 下線部㉕のような問題を示す用語として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 2

- ① バーチャル・リアリティ
- ② ユビキタス
- ③ デジタル・デバイド
- ④ サブリミナル効果

倫 理

問 3 下線部㉔に関連して、乳児から高齢者に至る発達過程を理論化したエリクソンの考えとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 3

- ① 人間が自己を確立していく過程は人生において8段階あり、各段階には達成すべき心理的・社会的課題が設定されていると考えた。
- ② ライフサイクルのなかで、青年期の発達課題は他者に対する基本的信頼を獲得することであり、それが自己肯定感の基盤になると考えた。
- ③ アイデンティティ確立後も、人は多くのことを学び、成長していくが、人にはそれを可能にしている一次的欲求があると考えた。
- ④ 成熟した人格の確立には、他者からの視点を意識しつつ、物事を客観的に捉える脱中心化が不可欠であると考えた。

問 4 下線部㉕に関して、現在の日本社会において家族を取り巻く状況についての記述として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 4

- ① 婚姻率の低下により未婚者が増え、成人後も両親との同居を続ける人が多くなっており、一人で住んでいる人の割合は低下している。
- ② 育児・介護休業法が制定されたため、労働者は男女を問わず、法的には育児や介護のための休業を取得できるようになった。
- ③ 結婚後も旧姓を名乗ることを望む女性が増えたため、夫婦同姓か別姓かを選ぶことのできる選択制が導入された。
- ④ 介護保険制度など、高齢者の介護を社会全体で担う体制が整備されてきたため、高齢者の単独世帯数は減少している。

問 5 下線部㊦に関連して、次のア～エは、自我・自己・個性の形成と社会や他者との関わりについての考え方を説明したものである。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 5

ア マズローは、自己実現に至る欲求の五つの階層のなかで、身体の安全を求める欲求より上位に、他者に認められたい欲求をおいた。

イ フィヒテは、自己を伝統的な価値や社会の通念への従属から解放して、自由な価値創造の主体として肯定する意志を、力への意志と名づけた。

ウ マーガレット・ミードは、サモア島などでの調査から、歴史的・地域的な状況が個性の形成に大きく影響すると思った。

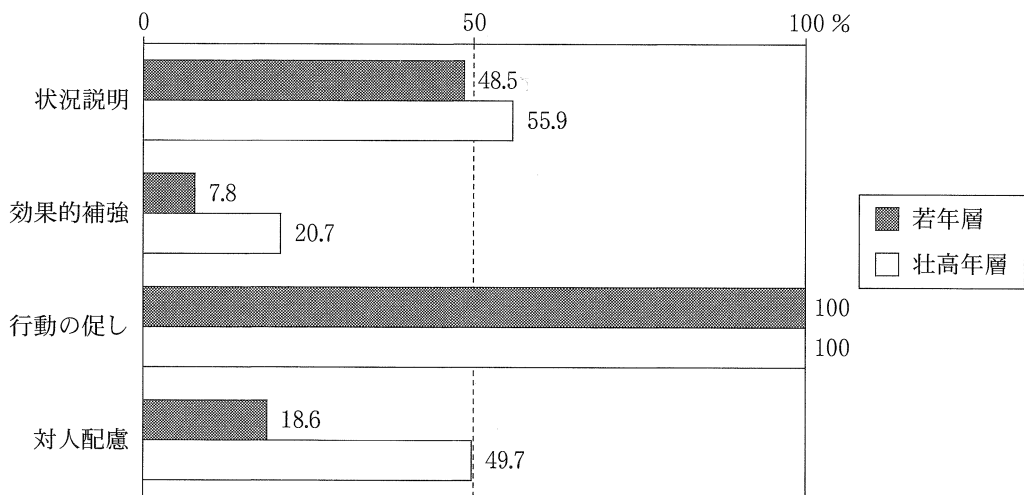
エ ユングは、個人の社会的経験を通じて後天的に身についた集合的無意識と自我の関連を、神話や伝説の分析を通して指摘した。

- | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|
| ① | ア 正 | イ 正 | ウ 誤 | エ 正 |
| ② | ア 正 | イ 正 | ウ 誤 | エ 誤 |
| ③ | ア 正 | イ 誤 | ウ 正 | エ 正 |
| ④ | ア 正 | イ 誤 | ウ 正 | エ 誤 |
| ⑤ | ア 誤 | イ 正 | ウ 誤 | エ 正 |
| ⑥ | ア 誤 | イ 正 | ウ 誤 | エ 誤 |
| ⑦ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 正 | エ 正 |
| ⑧ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 正 | エ 誤 |

倫 理

問 6 下線部④に関連して、次の図は、行きつけの店で買い物をした後、かさばる荷物を預けるとしたら、どのように依頼するかを若年層(高校生)と壮高年層(30歳以上)、それぞれ約200名にアンケート調査した結果を示している。二つの年齢層の違いをみるために、一人ひとりの回答内容に含まれる4種類の意図(状況説明、効果的補強、行動の促し、対人配慮)の有無を調査者が推測して、それらの意図が読み取れる回答をした人数の割合(%)を年齢層ごとに集計した。なお、一人の回答のなかに複数の意図が含まれることもある(例えば、「荷物がかさばるので預かってもらえますか」という回答には、状況説明と行動の促しの意図があると推測される)。図から読み取れることとして**適当でない**ものを、次ページの①～④のうちから一つ選べ。 6

図 回答から読み取れる意図



状況説明：「荷物がかさばるので」など、依頼の必要性の説明
 効果的補強：「後で取りに来ます」など、相手の承諾を引き出す説得
 行動の促し：「預かっていただけますか」など、依頼の意思表示
 対人配慮：「お邪魔でしょうが」など、相手の負担に対する恐縮や遠慮の表明

国立国語研究所『言語行動における「配慮」の諸相』(2006年)より作成。

- ① 恐縮や遠慮の意図が含まれる回答をした者の割合は、若年層と比較して壮高年層で高く、二つの年齢層の間に差がみられる。
- ② 複数の意図が含まれる回答をした者の割合は、若年層・壮高年層ともに半数以下であり、二つの年齢層の間に差はみられない。
- ③ 相手の承諾を引き出す説得の意図が含まれる回答をした者の割合は、壮高年層と比較して若年層で低く、二つの年齢層の間に差がみられる。
- ④ 若年層の回答に含まれる意図を割合の高い順に並べると、その順序は壮高年層の場合と同じであり、二つの年齢層の間に差はみられない。

問 7 下線部⑧に関して、ハーバーマスの「対話的理性」という考え方に合致している発言として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 7

- ① 議論をしても埋まらない立場の相違や利害の衝突は、多数者の意思に基づいて解決していく。それが、民主主義社会の公共性の原理でしょ。
- ② 多数決なんて乱暴だな。理想論って言われるかもしれないけど、みんなが互いに納得し合えるまで、とことん話し合いを続けるべきだよ。
- ③ 納得し合う必要もなく、とことん意見をぶつけ合っていけばいいのさ。議論で一番大切なのは、互いの意見の違いを明らかにすることだからね。
- ④ 理想的な対話は、見知らぬ者同士では難しいよ。理性的に話し合うためには、互いに信頼し合える親密な関係が不可欠だよ。

倫 理

問 8 下線部①を、政治思想家アーレントは、人々の間で行われる「活動」の特徴の一つと考えた。彼女によれば、活動は、物と人との間で成立する「労働」「仕事」とは異なり、人と人との直接関わり合う行為であり、ゆえに政治を始めとする公的な営みもまた活動であるべきなのである。アーレントが活動の特徴を述べた次の文章を読み、活動の具体例として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

8

話したり何かをしたりすることを通じて、私たちは人間世界に自ら参入するのである。……この参入は、労働のように必要に強いられるものではなく、仕事のように有用性に促されたものでもない。それは、私たちがその仲間に加わりたいと願う他者の存在に刺激されたものである。……語り合うことによって、人は自分が誰であることを示し、自分がユニークな人格をもつ存在であることを積極的に明らかにし、そのようにして人間世界に自分の姿を現すのである。

(『人間の条件』より)

- ① 文化祭で劇を上演することになり、Qさんは衣装係を割り当てられたので、演者の個性が引き立つような、ユニークな衣装を作った。
- ② Rさんは、飢餓に苦しむ人々を支援する運動に同級生が参加していることを知り、自分もアルバイトをして貯めたお金を寄付した。
- ③ 高校で生徒会選挙があり、仲のよい同級生が生徒会長の候補者となったので、Sさんはその同級生に投票することにした。
- ④ Tさんは、休み時間に教室で、同級生がその場にいない人を中傷しているのを目にして、憤りを感じたので、彼らに抗議した。

問 9 下線部①に関連して、次の文章は、言語をめぐるウィトゲンシュタインの思想を説明したものである。 a ～ c に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑨のうちから一つ選べ。 9

ウィトゲンシュタインは最初、「語り得ぬものについては、沈黙せねばならない」という立場を取っていた。それによれば、 a においては命題が真か偽かを確定し得るが、神や道德などの問題に関する哲学や宗教の言語は、現実の事象との対応関係をもっておらず、語り得ぬものを語ろうとすることになってしまう。そして、これまでの哲学的問題の多くは、語り得ぬものを語ろうとしたために生じてきた、というのである。しかし、後に彼は、 b における言語の使用や規則の習得について省察を深めていき、新たに c という概念を導入して、言語の問題を捉え直していった。こうした後期のウィトゲンシュタインの思想に従えば、 a における言語の使用もまた、 b に根差した多様な c の一つである、ということになる。

- | | | | |
|---|--------|--------|---------|
| ① | a 日常生活 | b 自然科学 | c パラダイム |
| ② | a 日常生活 | b 形而上学 | c パラダイム |
| ③ | a 日常生活 | b 形而上学 | c 言語ゲーム |
| ④ | a 自然科学 | b 日常生活 | c パラダイム |
| ⑤ | a 自然科学 | b 日常生活 | c 言語ゲーム |
| ⑥ | a 自然科学 | b 形而上学 | c 言語ゲーム |
| ⑦ | a 形而上学 | b 自然科学 | c パラダイム |
| ⑧ | a 形而上学 | b 自然科学 | c 言語ゲーム |
| ⑨ | a 形而上学 | b 日常生活 | c パラダイム |

倫 理

問10 下線部①は、様々な思想家によって考察の対象となってきた。その説明として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

10

- ① デューイによれば、道具を用いて環境を改善していく人間にとって、自らの知性もまた、個別の問題を解決して社会を進歩させるための道具である。
- ② カルヴァンは、人間は神の栄光を実現する道具であり、神に服従して善行を積むことによってのみ、神の救いを得ることができると説いた。
- ③ 柳田国男は、無名の職人たちが手仕事で作り出し、民衆が日々使用する道具に、生活に根差した固有の美を見いだし、民芸運動を主導した。
- ④ パークリーによれば、人間は道具を用いるが、人間を道具として扱うべきではない。個人は常に行為の目的として尊重されるべきだからである。

問11 本文の内容に合致する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

11

- ① Aさんは、インターネット上で見知らぬ人と意見をやり取りする場合、互いに相手の個人情報を知らないために、かえって活発な議論が可能になる、と考えている。しかしCさんの意見によれば、有意義な対話をするには相手と直に向き合うべきであり、いつでも会うことのできる親しい間柄でなければ、自由な意見交換を行うことはできない。
- ② インターネット上で有意義な対話ができるというAさんの主張と、それは難しいというCさんの主張に対して、Bさんは中立的な立場を取っている。Bさんの意見によれば、インターネット上であろうと面と向かってであろうと、言葉を上手に使いこなす技術を身につけた者同士であれば、互いの意見や感情を正しく伝え合うことができる。
- ③ 三人とも、有意義な対話を行うには誠実さが大切であると考えているが、Cさんの意見によれば、人と人が直に向き合わずに済むインターネット上では、相手への配慮を欠いた振舞いが横行する可能性がある。それに対してAさんは、インターネット上で多くの人と対話する体験を通して、他者に配慮する態度を養うことができる、と考えている。
- ④ 三人とも、インターネットには何らかの弊害や改善すべき問題点があると考えているが、AさんとBさんの意見によれば、インターネット上の見知らぬ相手とも有意義な対話を行うことができる。それに対してCさんは、インターネット上では自分が誰かを示す必要がないため、誠意や責任を欠いた発言が横行する恐れがある、と考えている。

倫 理

第2問 次の文章を読み、下の問い(問1～9)に答えよ。(配点 24)

苦しみや悲しみは、時に心に深い傷をもたらす。辛く悲しい思いをせずになりたいと思うのは、自然な心情であろう。とはいえ、他人の悲しみに全く心を動かされずにいることもまた難しい。こうした苦しみや悲しみに対して、先哲たちは、一体どのように向き合ってきたのだろうか。

悲しみとは、災いを被ることから生じた心の動揺である。古代ギリシアのストア派では、そのような心の動揺は「情念」(パトス)と解され、理性に従った④「情念からの脱却」(アパテイア)こそが賢者にふさわしい理想的な有り様とみなされた。この考えの影響は、4世紀キリスト教圏の初期修道院運動にも見いだされる。修道士たちは、俗世を離れ、清貧と祈りを旨とする禁欲的な共同生活において、情念に囚われた⑤罪深い魂の浄化を目指した。また、ブッダが求めたのも、一切の苦しみ悲しみを生み出す③煩悩からの解放であり、絶対的な心の平静であった。

しかし、自らの心から悲しみを払拭しようとするあまり、苦しみ悲しむ他者の存在を見過ごしにしてよいわけではないだろう。孟子は、⑥他者の苦しみや悲しみを見過ごすことのできない心を仁愛の芽生えであると説いている。自らの悟りを開いた後のブッダも、苦しみ悲しむ人々への^{あわ}憐れみから、悟りへの道を人々に示すべく、説法を始めたと言われている。

もう一步踏み込んで言えば、まず自ら他者の苦しみや悲しみに深く共感し、⑦憐れみの心を^{おく}臆せず開示していくことが、他者の痛む心を和らげるばかりか、弱者の社会的救済などの実践的な活動にまでもつながるように思われる。例えば、⑧イスラーム教の定める断食は、真に神を^{おそ}畏れる心を養う一方で、自ら飢え苦しむことによって、貧者の苦しみに心から共感し、進んで喜捨を施すようになるためのきっかけとみなされてきた。なるほど、苦しみ悲しむ他者への共感がなくとも、⑨正義に^{かな}適った仕方での彼らの救済は可能であるかもしれない。しかし、「正しい人であっても、さらに⑩友愛を必要とする」と説いたアリストテレスの主張を考え合わせれば、単なる義務の履行にとどまらない、ともに生きる他者への共感、よりよい社会の実現へと導く大きな力となるに違いない。

このように考えてくるならば、A。

問 1 下線部④に関して、ストア派のアパテイアの説明として正しいものを、次の

①～④のうちから一つ選べ。 12

- ① 自然に従って生きること、魂が完全に理性的で調和したものとなり、欲望や快楽などの情念によって動かされない状態。
- ② 情念や欲望が理性の命令に聞き従うことで、魂の三部分間の葛藤^{かつとう}や分裂が克服され、心が全体として理性によって制御された状態。
- ③ 過剰な情念に満たされることと、情念に心が少しも動じないことの中庸として見いだされる、有徳な人間にふさわしい適度な情念をもった心の状態。
- ④ 苦しみや悲しみなどが取り除かれて、心のうちに快楽が得られることによって、魂が浄化された平静な状態。

問 2 下線部⑥に関連して、罪深い人間の救済に関するパウロの義認の教えの説明として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 13

- ① 罪深い人間が義とみなされるのは、イエスの十字架の犠牲に倣った身体的な苦行によるのみである。
- ② 罪深い人間が義とみなされるのは、イエスの贖罪に示された神の愛への信仰によるのみである。
- ③ 罪深い人間が義とみなされるのは、信仰・誠実・愛というキリスト教の三元徳によるのみである。
- ④ 罪深い人間が義とみなされるのは、父・子・聖霊の三位が一であるという教義への精通によるのみである。

倫 理

問 3 下線部㉔に関して、ブッダの教えの説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 14

- ① 煩悩に苦しむ他者を救済することができて、はじめて自らが煩悩から解放されることになる。そのため、他者への慈悲心に基づいて、布施、持戒、忍辱、精進、利他、智慧の六波羅蜜を実践すべきである。
- ② 煩悩に苦しむ衆生の有り様は、大河に流され必死に漂流物にしがみついている姿に譬え^{たと}えられる。この漂流物とは、絶えず変転する物質世界のなかで永続する自己を意味しており、その理解によって人は煩悩から解放される。
- ③ 道諦は苦の滅却に至る道筋についての真理であり、具体的には八正道として示されている。この解脱に至る修行過程は、出家した修行者でさえ耐え難いほどの苦行であるので、煩悩から解放される者は極めて少数である。
- ④ もろもろの煩悩は苦しみや悲しみを引き起こすが、その根本原因は、無常や無我に関する無知にある。それゆえ、この世を貫く理法を正しく悟ることによって、煩悩から解放されることになる。

問 4 下線部㉕に関して、孔子と孟子の思想を表す次の文章中の a ・ b に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 15

他人を思いやることを孔子は a と呼び、生涯、これを実践していかなければならないと説いた。また、孟子は他者の苦しみや悲しみを見過ごすことのできない心を b の心と呼び、これを養い育てることによって仁徳は完成されると説いた。

- ① a 恕 b 惻 隱
- ② a 義 b 惻 隱
- ③ a 恕 b 辞 讓
- ④ a 義 b 辞 讓

- 問 5 下線部㊸に関連して、次の文章は、アウグスティヌスが自らの母の死という個人的な体験を通して、憐れみの心について記述したものである。アウグスティヌスの思想を踏まえて、この文章の説明として最も適切なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

16

私は、(死んだ母のために重い悲しみに沈んでいましたが、涙をもって安らぎを得たことで心の傷もすっかり癒され)今までとはまったく違った涙をそそぐのです。それは、(母も含めて)アダムにおいて死んだすべての魂の罪の危険を考えて、深く動かされて霊から湧き出る涙です。……主よ、赦してください。母の裁きに関わらないように、お願いします。憐れみが裁きに勝りますように。実際、あなたの言葉は真実です。あなたは憐れみ深いものに憐れみを約束しています。人々が憐れみ深いのは、あなたが彼らに憐れみ深いからです。

(『告白』より)

- ① ここで彼は、自らの母の死を通して神の言葉を人々に伝えるために、一部の悪しき人々が生まれながらに罪を抱えていると警告する一方で、罪の赦しに基づく新しい約束を説くことによって、希望と勇気を与えようとしている。
- ② ここで彼は、自らの母の死そのものよりも、原罪のゆえに母が犯した罪が神によって裁かれることを深く嘆く一方で、そのような神の裁きが、憐れみには憐れみを、罪には罰を、という報復主義に基づくものと説いている。
- ③ ここで彼は、自らの母の死そのものよりも、むしろ原罪によって母が犯した罪が贖い得ないものであることを深く悲しむ一方で、そのような罪さえも神からの憐れみという恩寵によって裁きを免れ得ると信じている。
- ④ ここで彼は、自らの母の死を悲しみ、彼女の犯した罪を嘆く一方で、そのような罪の裁きに勝る憐れみ深い神の恩寵のおかげで、他の人々もまた母に憐れみを与え、人々が母の魂の罪を赦すようになると示唆している。

倫 理

問 6 下線部㊦に関して、次のア～ウはイスラーム教の基本的な義務である五行に関する記述である。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 17

ア 健康な成人男女は、イスラーム暦 9 月のラマダーン月の日中、一切の飲食を絶たなくてはならない。

イ 経済的、肉体的に可能であれば、イエスが十字架上の死を遂げたエルサレムに巡礼しなくてはならない。

ウ 毎日 5 回メッカの方角を向いて^{ひざまず} 跪き、カーバ神殿にあるアッラーの肖像^{たた}画を称えなくてはならない。

- | | | | |
|---|-----|-----|-----|
| ① | ア 正 | イ 正 | ウ 正 |
| ② | ア 正 | イ 正 | ウ 誤 |
| ③ | ア 正 | イ 誤 | ウ 正 |
| ④ | ア 正 | イ 誤 | ウ 誤 |
| ⑤ | ア 誤 | イ 正 | ウ 正 |
| ⑥ | ア 誤 | イ 正 | ウ 誤 |
| ⑦ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 正 |
| ⑧ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 誤 |

問 7 下線部㉔に関連して、秩序や規範に対する考え方をめぐって、中国においてなされた議論の説明として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 18

- ① 韓非子は、人間の善意に基礎をおく儒家の仁愛の教えを批判し、法や刑罰によって社会秩序が維持されるべきだと説いた。
- ② 老子は、自他の分け隔てなく人を愛する墨子の兼愛説を批判し、兼愛による限り親疎の区別に基づく孝・悌が損なわれると説いた。
- ③ 荀子は、孟子の性善説を批判し、孔孟の徳治主義に対して、性悪説の立場から礼による人間の教化を目指す礼治主義を唱えた。
- ④ 王陽明は、朱子の説が世界を貫く規範である理を事物の内に求める傾向にあると批判し、理は自らの心の内にあると唱えた。

問 8 下線部㉕に関連して、愛をめぐる様々な思索について述べた次の文章を読み、文章中の a ～ c に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 19

プラトンの説く愛(エロース)が、具体的な美への^{あこが}憧れを経て完全な美そのものの a へと向かわせる愛であるのに対して、アリストテレスの説く真の友愛(フィリア)は、 b のために b にとっての善を願い、その実践へと向かわせる愛である。他方、『新約聖書』における愛(アガペー)とは、第一に、無条件にすべての人に与えられる無償の神の愛のことであり、次いで、それによって引き起こされた人間による c への愛を意味する。

- | | | |
|---------|---------|-------|
| ① a 観 想 | b 親しい人 | c 自 己 |
| ② a 創 造 | b 親しい人 | c 他 者 |
| ③ a 観 想 | b 親しい人 | c 他 者 |
| ④ a 創 造 | b すべての人 | c 自 己 |
| ⑤ a 観 想 | b すべての人 | c 自 己 |
| ⑥ a 創 造 | b すべての人 | c 他 者 |

倫 理

問 9 本文の趣旨を踏まえて、

A

に入れる記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

20

- ① 過度の悲しみから解放されることは、善く生きるために不可欠である。しかし、理性によって絶えず情念が制御されるわけではないので、社会における実践に積極的に身を投じ、他者との現実的な関係のなかで自らの情念の抑制の仕方を学んでいく必要があるだろう
- ② 過度の悲しみに囚われたままでは、善く生きることは難しい。しかし、人々がともに善く生きるためには、理性的に情念を制御する一方で、さらに相手の苦しみ悲しみに共感しつつ、他者との交わりに自ら進んで身を投じることが必要となるだろう
- ③ 人々がともに善く生きるためには、まず一人ひとりが情念から解放されることが不可欠である。しかし、他者の苦しみ悲しみに対して人々が共感を覚えなくなったときには、社会的な善行へと人々を動機づけるためにも、社会正義の実現を義務づけることが必要となるだろう
- ④ 眼前で苦しみ悲しむ人に一片の同情心も抱かずにいることは難しい。しかし、そのようにして他者への共感によって心が動揺し、情念に引きずられるようになれば、社会における善き生は実現不可能となりかねないので、他者への共感を理性的に抑制する必要があるだろう

(下 書 き 用 紙)

倫理の試験問題は次に続く。

倫理

第3問 次の文章を読み、下の問い(問1～9)に答えよ。(配点 24)

私たちは日常を送るうえで様々な問題に直面し、その意味や原因を考える。だが、単なる思いつきでは表面的な理解にとどまりがちだ。問題の核心に迫り、思考を深めるためには、筋道に沿って考えることが大切である。このような思考の筋道は、日本において「理」と呼ばれてきた。ここでは、この「理」の変遷をみていこう。

古代において、人の力が及ばない不可思議なものは①「カミ」と考えられた。人々は、良い事も悪い事も神の「御所為^{みしわざ}」として受容し、それ以上の理由を問うことはなかったのである。その後、②「因果の理」を説く仏教が伝来し、この「理」に基づいて世の有り様を受け止めようとする人々が現れる。平安から鎌倉時代を生きた僧慈円は、世の乱れをどう理解するべきか悩み、『愚管抄』を書いた。この書で③末法思想の流行に抗して、社会が変化した原因を問うた彼は、あるべき世を求めて、物事を貫く「道理」を追求した。彼の試みは、この世を生きる人の視点から歴史を統一的に捉え^{とら}えることで、社会の有り様を受容し、未来を見通そうとするものであった。

戦国の世を経て、江戸時代に入ると、安定した社会のあり方を求めて、宇宙万物の基礎を問う朱子学が盛んになる。④林羅山は、世界を貫く一つの秩序を求める「窮理」の立場にたって、自然から道徳、社会までを「理」によって把握できると考えた。こうした朱子学的な「理」の導入をきっかけに、事象についての思索が深まるなかで、⑤物事を冷静に観察する態度が育まれた^{はぐく}。それは、有用な技術としての西洋科学に対する関心を生むことにもつながったのである。

近代に入ると、⑥西洋の思想を学び、朱子学的「理」に基づく世界観を批判する啓蒙思想家が現れる。彼らは、世界を把握するための新しい「理」のかたちを求め、それには、世界を認識する主体のあり方を問わねばならないと考えた。こうした「理」に対する新たな取組によって生まれた主体の探究は、「そもそも⑦自己とは何か」という問いを生み出した。これに対し、⑧西田幾多郎は、自己と世界を切り離す西洋近代的な論理を批判し、純粹経験がすべての根源であり、見る主観、見られる客観という形式もここから生まれると論じた。彼の思索は、西洋的論理の再考にとどまらず、世界と自己のあり方を問い直すものであった。

このように日本において「理」は、A。

問 1 下線部㉔に関して、『古事記』に描かれる神と世界の関係についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 21

- ① 世界は、唯一絶対の神が混沌^{こんとん}から作り出したものであり、この神が世界に存在するすべてのもののあり方を定めている。
- ② 世界には多数の神々が存在し、その背後には唯一絶対の神が控えている。この神を祀^{まつ}ることで、世界は安定を保っている。
- ③ 世界の中心には高天原があり、そこに暮らす神々が世界に存在するすべてのもののあり方を定めている。
- ④ 世界は、唯一絶対の神を根拠とするのではなく、おのずから成った世界であり、そこに多数の神々が存在している。

問 2 下線部㉕に関して、平安時代、『日本霊異記』という仏教説話集が著された。そこで語られた説話のうち、因果応報を教える説話として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 22

- ① ある女が、処女のまま妊娠し、二つの石を産んだ。その後、この石は成長し続けた。ある日、この石が村の守り神の子どもであるというお告げがあり、人々はその石を祀^{あが}り、崇めた。
- ② ある女が、子どもに捕えられた蟹^{かに}を不憫^{ふびん}に思い、自分の着物と引き換えに蟹を放してやった。後日、その女が大蛇に襲われたとき、八匹の蟹がやってきて、その大蛇を切り殺した。
- ③ ある僧が、寺院を建てるために人々から受け取った布施を自分のものにして贅沢^{ぜいたく}をしていた。ある日、その僧がにわかに病にかかり、「熱い熱い」と叫びながら一夜にして亡くなってしまった。
- ④ ある僧の投げた石が、たまたま鳥に当たり、その鳥は死んでしまった。その後、その鳥の生まれ変わりである猪^{いのしし}が、餌^{えさ}を探して地を掘ったとき、石が転がり落ちて、先の僧に当たり、彼は亡くなった。

倫 理

問 3 下線部㉔に関して、末法についての記述として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 23

- ① 修行者と仏の教えだけがあって、悟る人が現れない時代が一万年続く。
- ② 修行者も悟る人もなく、仏の教えのみが伝わる時代が一万年続く。
- ③ 修行者も悟る人もなく、仏の教えも消滅した時代が一万年続く。
- ④ 修行者はいるが、仏の教えが説かれず、悟る人もない時代が一万年続く。

問 4 下線部㉕に関して、林羅山が考えた窮理に基づく実践として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 24

- ① 真実無偽
- ② 万人直耕
- ③ 存心持敬
- ④ 知行合一

問 5 下線部㉔に関連して、次のア～ウは、自然や世界について実証的考察を行った思想家についての説明であるが、それぞれ誰のことか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 25

ア 動植物への関心から博物学的な知のあり方を追究する一方で、日用の道徳を分かりやすく説くなど、朱子学を日常に活かす試みを行った。

イ 懷徳堂に学び、地動説に基づく独自の宇宙論を展開し、合理主義的観点から、靈魂の存在を認めない無鬼論を展開した。

ウ 懐疑的態度から世界のあり方を問い、気や理などの朱子学の用語を用いて自然の法則を探究し、条理学を構築した。

- | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|------|
| ① | ア | 貝原益軒 | イ | 三浦梅園 | ウ | 山片蟠桃 |
| ② | ア | 貝原益軒 | イ | 山片蟠桃 | ウ | 三浦梅園 |
| ③ | ア | 三浦梅園 | イ | 貝原益軒 | ウ | 山片蟠桃 |
| ④ | ア | 三浦梅園 | イ | 山片蟠桃 | ウ | 貝原益軒 |
| ⑤ | ア | 山片蟠桃 | イ | 貝原益軒 | ウ | 三浦梅園 |
| ⑥ | ア | 山片蟠桃 | イ | 三浦梅園 | ウ | 貝原益軒 |

倫 理

問 6 下線部①に関して、啓蒙思想家の一人である西周による次の文章を読み、朱子学の「理」に対する彼の批判について説明した文章として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

26

朱子学は、同じ道理、道理と一様に口ではいうが、その実は理に二通りあって、その理が互いに少しも^{かんしやう}関渉*していないということを知らねばならない。今この区別を示すためにその一つを心理といい、その一つを物理と名づける。その物理は天地自然の理である。……しかし、心理というのはこのように広いものではなくて、ただ人間上ばかりに行われる理で、人間でなくてはこの理を会する**ことができない。……その理(物理)は確定して万物ともにこれに外れることはならず、……^{すいせい}彗星が出るというようなことも、……それだけの原因があらかじめそなわっていてできることである。……坊主一匹の祈念で天地の和を害することができるであろうか。ここが物理はまったく別なもので、いかに心力を尽くしても物理には増減のないという証拠である。

(『百一新論』より)

*関渉：関係

**会する：理解する

- ① 道理のうちには二つの理がある。一つは、あらゆる事象を貫く物理であり、一つは、人間にのみ当てはまる心理である。両者は異なる原理に立つものであるにもかかわらず、朱子学はそれを混同している。
- ② 道理のうちには二つの理がある。一つは、人間以外のものを貫く物理であり、一つは、人間だけが知ることのできる心理である。心理は物理の支配下にあるが、朱子学はその関係を捉え損ねている。
- ③ 道理のうちには二つの理がある。一つは、あらゆる事象を貫く物理であり、一つは、人間にのみ当てはまる心理である。両者は連続したものであるにもかかわらず、朱子学はその連続性を見落としている。
- ④ 道理のうちには二つの理がある。一つは、人間以外のものを貫く物理であり、一つは、人間だけが知ることのできる心理である。物理は心理の支配下にあるにもかかわらず、朱子学はその関係を捉え損ねている。

問 7 下線部㊸に関して、日本が近代化するなかで、自己について問うた人物に北村透谷がいる。彼に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

27

- ① 自己とは政治的な世界において実現されるものではなく、具体的な現実を離れ、想世界の充実を通じて内面的に確立されると論じた。このような自己へ至る方法として恋愛を重視した。
- ② 自由民権思想のもと、独立した自己の重要性にめざめ、政治運動に没頭した。そして、文学や芸術を想世界に閉じこもる行為であると批判し、自己の実現は、実世界における実践で確立されると訴えた。
- ③ 自己とは政治的な世界において実現されるものではなく、具体的な現実を離れ、想世界の充実を通じて内面的に確立されると論じた。このような自己へ至る方法として本能を重視した。
- ④ 自由民権思想のもと、独立した自己の重要性にめざめ、政治運動に没頭した。そうした実践を通して、想世界と実世界は一致し、自己の独立が可能になると訴えた。

倫 理

問 8 下線部①に関して、次の文章は、『善の研究』から始まる西田幾多郎の哲学的
思索の展開について述べたものである。 a ～ c に入れる語句の組
合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 28

純粹経験とは、 a の状態で成立するものであるが、純粹経験からすべ
てを説明するためには、 a だけではなく、主観と客観の分化を論理的に
基礎づける必要がある。そのために彼は、主客の根底を問うて、主観と客観を
成立させると同時にそれを包む「 b 」の論理を求めた。西田によれば、
「 b 」の論理は、有と無の対立を超えて、事物事象そのものを可能にする
「 c 」に基づくものであった。

- | | | | |
|---|--------|-------|--------|
| ① | a 主客未分 | b 空 | c 絶対無 |
| ② | a 主客未分 | b 場 所 | c 絶対無 |
| ③ | a 主客未分 | b 存 在 | c 絶対他力 |
| ④ | a 主客未分 | b 場 所 | c 無 我 |
| ⑤ | a 主客対立 | b 存 在 | c 絶対他力 |
| ⑥ | a 主客対立 | b 空 | c 絶対他力 |
| ⑦ | a 主客対立 | b 場 所 | c 絶対無 |
| ⑧ | a 主客対立 | b 空 | c 無 我 |

問 9 本文の趣旨を踏まえて、A に入れる記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。29

- ① 常に新しい問題や困難な課題に直面するなかで問い直されるものであったため、時代とともにそのかたちは変わっていった。それゆえ、「理」を求める知的態度には限界があることを理解し、物事に対して懐疑的立場を保持することが必要である
- ② 自国の文化の固有性を否定し、外来の文化を進んで取り入れることで成立するものであった。自国に対して批判的立場を保持し、外来の文化に柔軟に対応することは、多様化した社会を生きるための新たな視点を獲得する契機となるものである
- ③ 課題に直面するなかで、従来の考え方に^{とら}囚われず、世界のあり方を問い直し、思考を深める過程で見いだされるものであった。従来の考え方に頼るだけでなく、自らの立場を反省することは、新たな思考のかたちを生み出す契機となり、事態の核心に迫ることを可能にするものである
- ④ 世界の絶え間ない変化のなかで変わっていくものであり、世界の移ろいと「理」とを一体的に理解することが重要であった。先の見えない現代を生きていくうえで大切なのは、出来事があるがままに受容する柔軟な「理」に基づき、自然に従い生きていく態度である

倫理

第4問 次の文章を読み、下の問い(問1～9)に答えよ。(配点 24)

批判することは、単に非難するだけの否定的なものだとみなされることがあるが、それに尽きるものだろうか。西洋の近代以降における批判の営みをたどりながら、批判の意味について考えてみたい。

批判においては、自明とされてきた権威や価値を鵜呑みにしないことが肝心である。例えば、①ルターは、教会の説く信仰が形骸化していると感じ、魂の救済のためには、贖宥状(免罪符)の取得ではなく、聖書に基づく信仰こそが重要だと説いた。また、ベーコンは、従来のスコラ哲学が空虚な議論に陥りがちだと考え、②先入見を排し、観察と実験を通じて自然を認識することが必要だと唱えた。

さらに、批判の目は政治や社会のあり方にも向けられる。特に、18世紀になると、フランスの啓蒙主義者たちが、不平等な③旧体制(アンシャン・レジーム)に抗議し、理性に基づいて、万人の自由と権利を保障すべきだと訴えた。このように、あらゆる権威の正当性を問いたす「批判の時代」の風潮のなかで、カントは、④理性によって理性自身の能力を吟味する批判哲学を展開した。彼は、理性の自己批判を通じて、理性が有効に機能し得る範囲を見定めることで、他の権威に服従せず、自らの理性にのみ従う自律的な人々からなる道徳的世界の可能性を切り拓いた。

こうした様々な権威への批判は、自由で平等な社会を目指す推進力になっていく。しかし、19世紀以降の社会の現実には、その理想を裏切る結果も伴っていた。例えば、世論が少数派の意見を抑圧する事態が生じ、それに対して、ミルは、言論の自由と⑤個性の発展を尊重すべきだと唱えた。また、産業化で生産力が増大したのに多数の者が困窮している状況に対して、⑥マルクスは、社会の構造を変革し、真に平等な社会を実現すべきだと訴えた。20世紀には、⑦大衆社会が到来し、科学技術が発達するなかで、新たな問題が生じてきた。そこで、フランクフルト学派は、ファシズムにつながる大衆心理を分析し、科学技術が核兵器のような新たな野蛮を生み出す状況を批判し、⑧文明社会の危機を打開する道を模索した。

このように、様々な思想家たちは、社会や自己について問い直すことで、現状とは違ったあり方の可能性を提示してきた。その意味で、批判は、社会の現実や自己のあり方から目をそらすことなく理想を追求していく営みだと言える。

問 1 下線部②に関して、ルターの著作として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 30

- ① 『愚神礼讃(痴愚神礼讃)』
- ② 『キリスト者の自由』
- ③ 『キリスト教綱要』
- ④ 『人間の尊厳について』

問 2 下線部⑤に関して、次のア～エはベーコンが「イドラ」と呼んで批判した様々な先入見についての記述である。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 31

ア 種族のイドラは、人間相互の交わりや社会生活から生じる。

イ 劇場のイドラは、伝統や権威を鵜呑みにすることから生じる。

ウ 洞窟のイドラは、人間に共通する自然的な制約から生じる。

エ 市場のイドラは、各人が各様にもっている経験や知識から生じる。

- | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|
| ① | ア 正 | イ 正 | ウ 誤 | エ 正 |
| ② | ア 正 | イ 正 | ウ 誤 | エ 誤 |
| ③ | ア 正 | イ 誤 | ウ 正 | エ 正 |
| ④ | ア 正 | イ 誤 | ウ 正 | エ 誤 |
| ⑤ | ア 誤 | イ 正 | ウ 誤 | エ 正 |
| ⑥ | ア 誤 | イ 正 | ウ 誤 | エ 誤 |
| ⑦ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 正 | エ 正 |
| ⑧ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 正 | エ 誤 |

倫 理

問 3 下線部㉔に関連して、当時のフランス社会を批判した思想家についての記述として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 32

- ① ディドロは、様々な国家制度を比較し、立法権・執行権・裁判権が互いに抑制し均衡をはかるシステムの重要性を認識し、それを欠いたフランスの専制政治を批判した。
- ② モンテスキューは、フランス政府からの度重なる発禁処分にもかかわらず、様々な学問や技術を集大成した著作を出版するとともに、人民主権の立場から、封建制を批判した。
- ③ ヴォルテールは、書簡形式の著作において、イギリスの進歩的な政治制度や思想をフランスに紹介することを通じて、フランスの現状が遅れていることを批判した。
- ④ パスカルは、人間が生まれながらにもつ自然な感情である^{あわ}憐れみの情が、文明の発展とともに失われていくと分析し、不平等と虚栄に満ちたフランス社会を批判した。

問 4 下線部㉕に関して、カントの批判哲学についての記述として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 33

- ① 合理論と経験論の一面性を乗り越えるべく、両者の立場を総合して、人間が物自体を理性によって認識できると論じた。
- ② ヒュームの著作に影響を受け、自然科学の客観性を疑問視して、その基礎にある因果関係が主観的な信念であると論じた。
- ③ ロックの著作に影響を受け、人間の霊魂や神など、人間が経験できる範囲を超えた対象については、その存在を否定できると論じた。
- ④ 認識が成立する条件を考察し、人間の認識は、認識の素材を受け取る能力と、その素材を整理し秩序づける能力の両者から生じると論じた。

問 5 下線部㉔に関して、ミルが個性の発展を擁護した理由についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 34

- ① 個性の自由な発展は、自我の安定のために有益であり、それを社会が認めないと、無意識の欲望が抑圧されて、自我の不安を覚える人々が多くなってしまう。
- ② 個性の自由な発展は、個人の幸福にとって不可欠だけではなく、社会全体が進歩していくためにも有益であり、他人に害を与えない限り、それを制限してはならない。
- ③ 個性の自由な発展は、人間が生まれながらに持っている自然権の一つであり、それを社会が抑圧しようとするのは、いかなる理由をもってしても絶対に許されない。
- ④ 個性の自由な発展は、人間が神から与えられた才能を開花させることであり、それを抑圧しようとするのは、神を信じることのできない人間の傲慢^{ごうまん}に基づいている。

問 6 下線部㉕に関して、資本主義社会に対するマルクスの批判についての記述として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 35

- ① 人間は本来、他人と関わらず独立して生きる存在であるが、資本主義社会では相互依存の関係にあり、人間性が失われた状態にある。
- ② 資本主義社会では、商品の交換関係が支配的となり、人間もまた、物のように取り替えのきく存在として捉え^{とら}えられるようになる。
- ③ 生産手段をもたない労働者は、自分の労働力を売って生活するしかなく、労働の成果も資本家のものとなるなか、労働が苦役になっている。
- ④ 商品の価値は、人間の労働に由来するものであるにもかかわらず、商品や貨幣それ自体が価値をもつものとして、ますます崇拜されるようになる。

倫 理

問 7 下線部⑤に関連して、次の文章は、大衆社会と科学技術を批判したハイデッガーの思想について説明したものである。 a ～ c に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 36

ハイデッガーは、人々がうわさ話に夢中になり、新奇なものを求め、なんとなく曖昧あいまいに生きている日常的なあり方を a と呼んだ。こうしたあり方から本来の自己へと至るには、 b のただなかで、自己の死の可能性を直視することが必要だとした。後に彼は、科学技術のあり方を考察し、そこでは人間も含めてあらゆるものが利用されるべき材料とみなされていることを批判した。彼はこうした状態を c の喪失と呼び、そこから脱却する道を模索した。

- | | | | | | | |
|---|---|--------|---|-----|---|-----|
| ① | a | ルサンチマン | b | 絶 望 | c | 故 郷 |
| ② | a | ダス・マン | b | 不 安 | c | 人 倫 |
| ③ | a | ルサンチマン | b | 不 安 | c | 故 郷 |
| ④ | a | ダス・マン | b | 絶 望 | c | 人 倫 |
| ⑤ | a | ルサンチマン | b | 絶 望 | c | 人 倫 |
| ⑥ | a | ダス・マン | b | 不 安 | c | 故 郷 |

- 問 8 下線部①に関連して、次のア～ウは文明社会を批判的に考察した思想家の見解であるが、それぞれ誰^{だれ}の見解であるか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 37

- ア 現代の消費社会において、人々が商品を購入するのは、それが必要だからというよりも、他人との差異を示すためであり、そうした差異への欲望を刺激し消費拡大を目指す企業を批判する言説も、消費の対象になっている。
- イ 実現すべき目的を批判的に検討する能力であった理性は、近代社会の発達に伴って、任意の目的に手段が形式的に適合するかどうかを判断するだけの道具的理性と化し、個人を抑圧する画一的な社会を形成してきた。
- ウ 合理性を徹底的に追求した近代官僚制を特徴とする社会を作り上げた現代人は、いわば鉄の檻^{おり}と化したこの社会のなかで管理され、豊かな精神と人間性を欠く存在に墮する危険にさらされている。

- | | | |
|-------------|-----------|-----------|
| ① ア ウェーバー | イ ボードリヤール | ウ ホルクハイマー |
| ② ア ウェーバー | イ ホルクハイマー | ウ ボードリヤール |
| ③ ア ボードリヤール | イ ウェーバー | ウ ホルクハイマー |
| ④ ア ボードリヤール | イ ホルクハイマー | ウ ウェーバー |
| ⑤ ア ホルクハイマー | イ ウェーバー | ウ ボードリヤール |
| ⑥ ア ホルクハイマー | イ ボードリヤール | ウ ウェーバー |

倫 理

問 9 本文の趣旨に合致する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

38

- ① 批判とは、従来の権威や価値を問い直し、そこに含まれる問題を克服して
いこうとする営みである。固定化した現実や囚^{とら}われた物の見方から解放さ
れ、社会や自己の有り様に真摯^{しんし}に向き合うことによって、現状とは違ったあ
り方を構想することができる。
- ② 批判とは、従来の権威や価値から学び、それを創造的に活用していこうと
する営みである。従来の様々な見方を知り、自分の視野を広げることで問題
を新たな角度から捉えることによって、現実をありのままに受け入れるこ
とができる。
- ③ 批判とは、従来の権威や価値に疑問を投げかけ、それを絶えず乗り越えて
いこうとする営みである。批判を徹底して行い、批判の活動それ自体を否定
するところにまで達することによって、何物にも囚われない理想的な境地に
たつことができる。
- ④ 批判とは、従来の権威や価値から距離を取り、自己にとっての真実を追究
しようとする営みである。他人の意見や社会の規範の影響を明るみに出し、
自分独自の考え方を発見することによって、時代に流されない主体的な生き
方を送ることができる。

(下書き用紙)